

# 北陸石仏の会々報

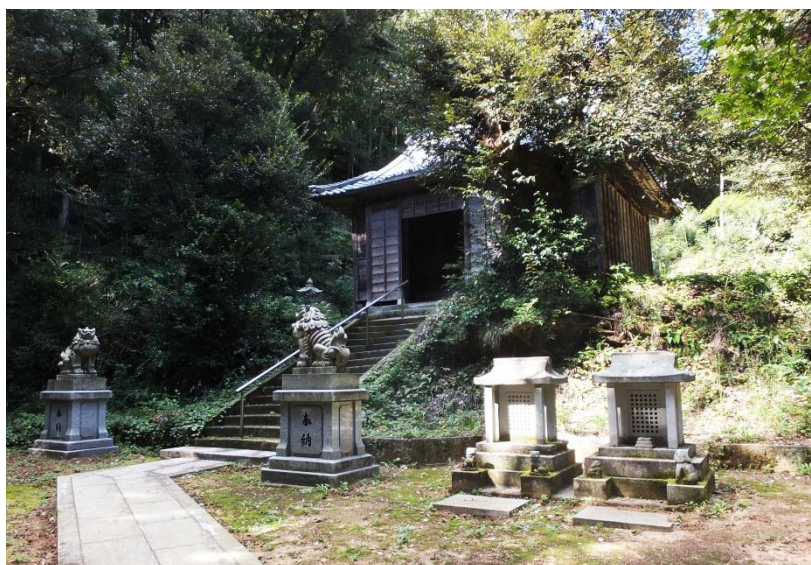
## 雨宝童子座像

滝本 やすし

石川県加賀市橋町は北国街道の橋宿があつた場所で、石川県最南端の宿場であつた。集落南外れの街道沿いに、天照皇大神を祭神とする多知波那神社が建てられている。

拝殿へ登る石段の右手前に、二基の石祠が建てられている。二基の石祠は同じ形状で、ほぼ同寸である。各々に小型の狛犬が一對ずつ置かれている。

左の石祠には、黒塗りに白文字で「天照皇大神」と書かれた小さな石柱が納められている。また右の石祠には、丸彫りの雨宝童子座像が納められている。雨宝童子は、右手に宝棒を、左掌上に宝珠を持つのであるが、左手の手首から先が欠落している。雨宝童子の作例はほぼ全てが立像であり、座像を拝見するのは初めてである。



多知波那神社拝殿と2基の石祠



「天照皇大神」



雨宝童子座像

第64号  
令和3年8月25日発行  
編集と発行  
**北陸石仏の会**  
(日本石仏協会北陸支部)  
代表 平井一雄  
〒939-1315  
富山県砺波市太田  
1770 尾田武雄方  
電話 0763-32-2772  
振替 00740-2-11974  
(年会費 3000円)  
ホームページ  
<http://odatakeo.wp.xdomain.jp/>

- ・ 雨宝童子座像
- ・ 大久保用水と三輪日賢
- ・ 石造涅槃図
- ・ 井波石工について
- ・ 第61回例会案内

## 大久保用水と「三輪日賢」彰徳碑

平井 一雄

国道41号線と旧笹津線の間の道路、今は旧道と言われているがかつての国道で富山市と大久保町、大沢野町を結ぶ古くからの街道であった。熊野川を越えた高台が塩野であり、その内の東側一帯を大窪（大久保）野という。

大久保野は元来、小石混じりの荒地で、松原の中を飛州街道が見え隠れに続いているだけの寒村であった。ここを開くには、神通川の水を高台へ引き上げるより他なく難工事のため、富山藩では最も開墾の遅れていた所である。寛保元年、笹津地内（加賀藩領東笹津坪根）から取水の案が出たが実現せず、ようやく明和三年、着工したけれど、たびたびの洪水で損失甚だしく、天明二年に至り再工事を始めた。しかし天明八年に関係十村（とむらゝ庄屋）役がこの工事の中止を訴え出ている。しかし、これがもとで塩野にはいくらかの水田を開くことができたのである。

### 岡崎孫治郎

そのころ、任海村（富山市）に岡崎孫治郎という人がいた。孫治郎はこの大久保用水のようすを見て、自分ならば、さらに五百石あまりの水田を開く自信があると、用水の拡張工事を行うことを願い出た。孫治郎は非常な苦勞を重ねて工事を進めた。ところが工事なかばにして、しばしば大洪水にみまわれ、できかかった用水はいたるところで壊された。

ようやく用水らしい形が整ったところにまたも洪水に襲われ用水は見るも無残なすがたになってしまい、さすがの孫治郎もついに用水の開拓を断念するにいたった。

寛政十二年富山藩は、大久保用水の取入れ口の大改修を行うことをきめ、再び大久保用水掘りの工事を始めた。

このため、次第に住民も増し、またまた用水量の不足をみるにいたった。そこで文化三年幅三間の新用水路を作ることにした。

### 岡田屋嘉兵衛（三輪日頭）

この大改修に力をつくしたのが岡田屋嘉兵衛、後の三輪日頭である。日頭は延享四年富山中野新町に生まれた。西町で米穀商を営み「一つとや一つ岡田屋嘉兵衛さんは、富山で一番金持ちで」とかぞえ歌にまで歌われる分限者で、藩の上層部に対してもその財力で隠然たる力をもっていた。富山藩が藩財政の建て直しを賭けて行った文化年間の大久保開拓には、自ら願ひ出て御開方上締役となり、東大久保に千石高の新開願を出して、現地に跡取りの甚次郎を住まわせ、作人を使って開拓を進めた。人足4000人も使ったの大工事は、台所の苦しい富山藩にとって経済的負担が大きかった。そこで日頭は、従来飛騨へ送っている塩荷を更に倍増して二万俵とし、その利益を工費にあてることや、蠟を取るハゼの木を畑地へ植えて利をあげることなどを献策した。これらは後に、藩が幕府からの命令だといって増税したことと合わせて、百姓の恨みを買ひ、文化十年百姓一揆の要因となった。富山藩の窮状をみかねた日頭は、尚も資財を投じて、この工事の中絶廃絶を憂い、完遂の為に献身したのである。

新しい用水路は、幅も広く東大久保まで伸びる長いものであった。熱烈な法華信仰に支えられた日頭の真心は人々の心をうった。満願の日に神通川の水が用水に流れ入った。

時に日頭六七歳富山藩の将来を思い大久保開拓の重要性を考え、大久保野の発展をみこして幾多の非難と難事に屈せず、遂に工事を完させた。一揆（文化十年百姓惑乱一件）によって開発中止となったため、日頭は、千石開願の内四百石で終わるなど財政負担が多く、富山一の分限者も漸次衰えていった。

法華信仰は益々厚く、東大久保の地に一寺（五穀成就院）を建てて仏恩報謝の生涯を怠りなくつとめ、文政十一年数えて八十二歳で没した。富山市立像寺に眠る。

### 三輪日頭彰徳碑

「これはみんなに憎まれながら、自分の財産さえ注ぎ込んで、働いてくだ

さった日顕さまのおかげだぞい」「ありがたいことだ。どうだ皆の衆、日顕様のご恩を孫子の代までも忘れないようにお札の言葉を刻んだ石碑をつくらうではないか」「賛成だ、よしおらの藩内では一番の学者先生にその言葉を作ってもらおう」「石に刻む字も、一番の先生に書いてもらおうではないか」かくて、とうとうと流れる大久保用水のふちに、村人の感謝の念をこめた立派な石碑が建てられた。

**碑文**

本藩処士三輪日顕翁文化丙寅年、損擲收穀二千石余、自家田暨黄金幾千両、以懇大久保野辟公田七十九万余畝、且歲輸塩干飛驒、此皆出翁所創謀焉嗚呼翁処士也、而為國興利強本恤隣、可謂用心勤哭、大久保父老恐翁之盛烈煙滅、今茲庚申六村相議、刻石樹碑微記千余、余因為記其由云  
万延紀元庚申秋九月

富山藩文学兼侍講栗岡田淳之撰

同藩 石樵小西有斐書

**歌碑**

**表**

神通川たえぬ流れを引入れて

志おのの里に開く千町田

欣堂書

**裏**

昭和三十一年八月、三輪日顕翁彰徳碑を遷座し、その境域を整え風致を図り、更に翁の孫為敦氏詠の歌を勅し一碑を建立す  
大久保用水土地改良区

**参考文献**

郷土に輝く人びと

昭和四九年三月発行

大久保地区上大久保郷土誌

平成元年発行

大久保風土記  
富山市  
富山県教育史  
まなぶ展図録  
上

昭和四七年十一月発行  
明治四二年発行  
昭和四六年発行  
平成六年十月発行



三輪日顕彰徳碑歌碑



歌碑



三輪日顕彰徳碑

## 石造涅槃図

滝本 やすし

涅槃図とは釈迦の入滅を描いたもので、通常は軸装されて涅槃会に用いられる。人物や動物が多数描かれ、大型の掛軸となっているものが多い。涅槃図を石造で製作した場合も大型となるため、作例は少ない。

## ①富山県滑川市四間町 曹洞宗徳城寺〔平成後期〕

本堂左手前の小堂に、丸彫りの釈迦と浮彫りの十六羅漢が納められている。この小堂は平成の終わり頃に建て直されたもので、その後、丸彫り釈迦像の背後に新しい石造涅槃図が納められた。

## ②富山県高岡市伏木古府 曹洞宗正法寺〔昭和七〜十三年〕

昭和七年に、道前泰貫によって四国八十八ヶ所霊場の本尊を模した伏木八十八霊場石仏群の造立が始まった。同十三年に完成し、曹洞宗寺院として創建された。

第九番の丸彫り釈迦涅槃像の周囲に、同じく丸彫りの人物や動物が配されている。

## ③石川県七尾市笠師 曹洞宗大覚寺〔大正十一〜十五年〕

境内の山中に、四国八十八ヶ所霊場の本尊を模した北国八十八ヶ所霊場が造られている。四国霊場の本尊と同じ方向を向いて置かれている。四国まで行けない人達のために造られたもので、大正十一年に起工、同十五年に完成した。

第九番の丸彫り釈迦涅槃像の背後に、多くの人物や動物が彫られた石板を立てられている。丸彫りの涅槃像が手前にあるので、石板には涅槃像が彫られていない。

## ④福井県福井市西木田4丁目 曹洞宗泰清院〔享保十年〕

足羽一丁目の金毘羅山怒相院に建てられていた石室で、平成十六年頃に在地へと移されている。この石室には釈迦涅槃図が彫られた角板が納められており、正面の扉は欠損している。角板は高さ92 cm、幅73 cmで、中央上部で二つに割れている。福井地震の際に破損したのであるか。石室背面に、次の銘文が刻まれている。

享保十乙巳三月十五日

三界萬霊等

木田中町之住ノ施主造立之ノ月尾氏

石工ノ久野又助

## ⑤福井県南越前町新道 殿城庵〔推定元禄年間〕

新道(旧鹿蒜村新道)の山中に殿城庵と称される場所があり、畳四畳ほどの建物が建てられている。周囲には五輪塔や板碑などが点在しており、ここは殿城庵という寺院(仏堂)があった場所のようである。建物の内部には、十王、奪衣婆、懸衣翁(以上木造十二軀)、慈恵大師、六地藏、青面金剛と二童子、阿修羅王、地藏、釈迦涅槃図、地藏、狛犬、猿像、地藏、薬師如来と十二神将、角大師と西国三十三ヶ所観音、牛乗り大日、弘法大師、僧形像(以上石造十六軀)、多数の文字が刻まれた石板、経櫃、卒塔婆などが納められている。

釈迦涅槃図は横長の大きな板状の凝灰岩に浮彫りされている。下方の動物たちは線彫りである。高さ60 cm、幅90 cm。厚さはわずか数cmであり、自立できない。石室内に立てかけられていたのであるか。その手法や、建物内にいっしょに納められている年紀名のある他の石造物から、元禄年間の作と推定される。これには一般的な涅槃図にみられない次のような特徴がある。

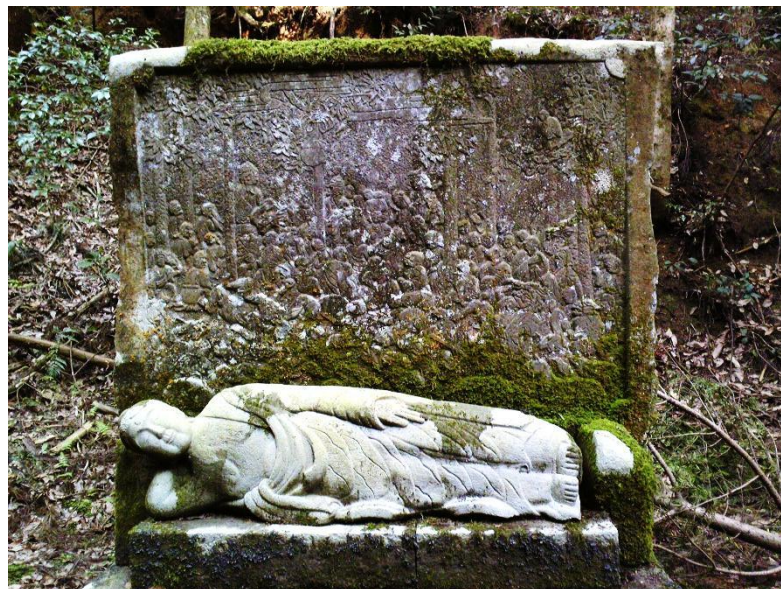
- ・ 釈迦の周囲に沙羅双樹が彫られていない。
- ・ 雲に乗って駆け付けた麻耶夫人や阿那律尊者などが彫られていない。
- ・ 上部の左右に日月が彫られている。
- ・ 神像が多く彫られている。これは神仏習合の信仰によるものであろうか。



富山県高岡市伏木古府 曹洞宗正法寺



富山県滑川市四間町 曹洞宗徳城寺



石川県七尾市笠師 曹洞宗大覚寺



福井県南越前町新道 殿城庵



福井県福井市西木田4丁目 曹洞宗泰清院

# 井波石工について

尾田 武雄

富山県砺波市庄川町の明治の名工森川栄次郎については、かなりの研究は進んでいる。森川についてはその墓碑により、一生の間一千体の石仏を制作されたことが知られている。しかしこの森川を先行して、井波石工に関しては系統だった調査はされていなかった。これは私自身の怠慢でもあるが、現在の調査の中間報告として、発表したい。

まず井波石工と金屋石工の系譜について年表にしたので参考にしていただきたい。

和歴	西暦	事項
享保十八年	1733	石山希望者に150匁の役銀とひきかえで採掘させた。以後採掘権は、特定の人に与えられ売買の対象になった。(「町中末々困窮に付助成願書」P30。『井波町史下巻』P113)
延享元年	1744	三合新の千光寺石塔に「石工井波善太郎」が作る。
五年	1748	「石仏出来開眼井波石屋作」(『医王は語る』P387・福光町法船寺文書)
天明七年	1787	新たに石山を開き、北川村の石屋善太郎に一年銀二十匁で採掘権を与えた。(「石切山請場所詮議願書」『井波町史』P496)
享和三年	1803	石工伊右衛門と清左衛門石切り場境争論一件(井波肝煎文書)
文化三年	1806	「石工四人御座候」(井波肝煎文書)
七年	1810	石山の採掘者は、甚右衛門、かじ屋又兵衛、義右衛門、清次郎、平蔵、がある。(井波肝煎文書)
文化十四年	1817	金屋村庄兵衛が越前の国の石工について仏神彫刻の修業をする。(「青島村地蔵縁記」)

文政二年 1819

甚右衛門が小矢部市経田に石仏「阿弥陀如来」を作る。

七年 1824

金屋岩黒村庄兵衛兄弟不法の石切り一件(井波肝煎文書)

天保二年 1831

砺波市太田金比羅社の灯籠に「京坂庄兵衛」とある。

八年 1837

井波町甚兵衛は所有した石切り場の半分を銭二三貫で石屋和兵衛に売り、石山役銀三匁一分あまりを上納するよう伝えた。(井波肝煎文書)

十三年 1842

善太郎家は、代々採石にあたったが、他の人々が勝手に石を切り出していた。そこで、善太郎は、石山銀を納入しているのに詮ないと嘆き、上納金の返却を請求した。(井波肝煎文書)

十四年 1843

この年以來金沢城修築工事に金屋石を使う。『庄川町史』P196(高岡木町文書)海上輸送には、銭屋五兵衛が当たる。文久二年(1862)のまでの二十年続く。

十五年 1844

石屋平四郎が所有した石切り場を銭六貫文で石屋次郎右工門に売り、石山役銀〇このころに金屋石の採掘が始まる。

弘化元年 1844

金屋村庄兵衛が山田村鍋谷村の牛嶽社のご神体を作る。

二年 1845

四匁一分あまりを上納するよう伝えた。(井波肝煎文書)

石山の採掘者は、北川村には茂兵衛、長左衛門、甚右衛門、甚左衛門、次兵衛松島村に清右衛門、伊右衛門、がいた。(『井波町史下巻』P526)金屋岩黒村には、伊右衛門、六兵衛、與三郎、伝右衛門、兵三郎、庄兵衛、久次郎、栄次郎の六軒の石屋がある。(『庄川町史』下巻P196「村々諸商売書出帳」弘化二年)

嘉永元年 1848

黒部市の布施山開きの内、竜の口の石樋が、金屋岩黒村よりいく。「黒部市石田川端家文書」



井波石工常川五市郎の不動明王

井波金屋石工の系譜年表を通観すると、井波石工の流れが理解できる。さて、井波石工における石仏の造立も、実に顕著なのである。現在分かり得る。石工名のある石仏の一覧は次のとおりである。

五年	1852	庄金剛寺村伝右衛門らから、勝手に石材を採掘されては困るとの訴えを出す。しかし御用石の搬出は従来通りになる。『庄川町史』P203
安政二年	1855	「井波請地石切り場譲渡一件」(井波肝煎文書)北川村石屋弥三郎から宗太郎へ、金屋庄兵衛が、太田の十一面観音を作る。(中筋往來)
二年		
三年	1856	福野町八塚の地蔵に「石工儀平」の銘がある。
文久二年	1862	富山藩八尾の奥野積山の三ヶ用水拡張工事を、青島村の伝四郎らが請負う。『庄川町史』P207)
三年	1863	福野町南町準提寺に「作井波石工七治郎」の石龕ある。
慶応二年	1866	井波町今里神明宮に「井波石工七次郎」の不動明王の石仏がある。

井波石工作石造物 (造像年順) 令和3年8月1日現在

№	石工名	種別	和暦	西暦	所在地
1	井波石工善太郎	石塔	延享元年	1741	砺波市三合新
7	石工甚右衛門	阿弥陀如来	文政二年	1819	小矢部市経田
31	石工當國砺波郡井波住常川五市郎	不動明王	嘉永四年五月吉日	1851	氷見市長坂光西寺
8	石工儀平	地蔵	安政三年	1856	南砺市八塚バス停横(福野町)
4	作井波石工七治郎	石龕仏	文久三癸亥三月中旬	1863	南砺市福野町南町准胝寺(福野町)
5	井波石工七次郎	不動明王	慶応二年正月	1866	南砺市今里神明宮(井波町)
27	石匠 常川義太郎	狛犬	明治十七年四月	1884	南砺市利賀村上百瀬神明宮
11	石工井波岩崎弥吉	地蔵	明治四十一年	1908	南砺市三清(福野町)
15	井波町石工岩崎弥吉	戦没碑	明治四十二年	1909	南砺市末松(城端町)
17	井波岩崎弥吉	彰功碑	明治四十二年四月	1909	南砺市末松神社(城端町)
37	石工 井波町 森□□	狛犬	明治四十三年九月	1910	南砺市梅ヶ島富士社
20	井波 石工弥三郎	狛犬	明治四十四年八月廿六日	1911	南砺市高儀神明社
29	石工常川茂太郎	狛犬	大正十年	1911	南砺市院林日吉神社(福野町)
21	井波 石工三郎	狛犬	明治四十五年春	1912	南砺市野新神明宮
23	作人井波岩崎弥五郎	聖観音	大正二年八月十七日	1913	南砺市安居安居寺(福野町)
12	石工井波岩崎弥吉	狛犬	大正六年	1917	南砺市桐木神明宮(福野町)
14	石工 井波岩崎弥吉	狛犬	大正六年	1917	南砺市桐木神明宮(福野町)
30	石工 常川茂太郎	狛犬	大正六年春	1917	南砺市院林日吉神社(福野町)
28	井波作人常川義太郎	聖徳太子2歳像	大正八年四月廿一日	1919	南砺市安居安居寺(福野町)
34	石工 井波森野善四郎	狛犬	大正八年八月二十九日	1919	南砺市野原神明宮
35	石工 井波森野善四郎	狛犬	大正十年九月	1921	南砺市広安平田神社
36	石工 井波森野善四郎	狛犬	大正十年九月	1921	南砺市平田神社(福野町)
32	井波町石工森野善四郎	狛犬	大正十二年九月	1923	砺波市庄川町示野神明社
18	井波 岩サキヤ吉	如意輪観音	大正十年六月二日法名釈尼智察	1924	砺波市伏木谷
33	石工 井波町 森野善四郎	狛犬	大正十五年 建之	1926	砺波市庄川町三谷水宮社
24	石工井波岩崎	如意輪観音	昭和三年	1928	南砺市沖(井波町)
25	石工井波岩崎	如意輪観音	昭和三年十二月二十日	1928	南砺市沖(井波町)
16	作人井波岩崎弥吉	不動明王	昭和五年	1930	南砺市高屋古宮(井波町)
10	彫刻師野村仁三郎	聖観音	昭和三十一年	1956	砺波市荒高屋
2	井波石工善太良	地蔵	なし	—	砺波市芹谷千光寺
3	石工井波善太郎	葦酒塔	なし	—	砺波市芹谷千光寺
6	石工甚右衛門	地蔵	なし	—	南砺市野尻石武雄神社隣(福野町)
9	井波町野村孫作	弘法大師	なし	—	富山市東猪谷
13	石工 井波石崎弥吉	狛犬		—	南砺市桐木神明宮(福野町)
19	石工 井波弥三郎作	聖観音		—	砺波市原野
22	井波町石工岩崎弥五郎	聖観音	なし	—	南砺市安居安居寺(福野町)
26	井波町石工常川義太郎	十一面観音	なし	—	南砺市雨潜神明社(福野町)

# 北陸石仏の会 第61回例会

## —高岡市伏木の石仏めぐり—

### 令和3年10月10日(日)

参加費：1000円（準備費用・資料代）

集合場所：車で来られる方 JR伏木駅……………8時10分、駅前観光駐車場利用

列車で来られる方 JR越中国分駅……………8時30分

申込方法：次の事項を記入の上、ハガキでご連絡ください。

住所、氏名、電話番号(携帯電話も)、集合場所

申込先：〒939-1315 砺波市太田1770 尾田武雄方 北陸石仏の会事務局

締め切り：令和3年9月30日(木)

案内：滝本やすし(石川県金沢市)

高岡駅8時07分発普通列車氷見行き→伏木駅8時21分発→越中国分駅8時24分着

見学予定 <全行程徒歩、約10km>

○越中国分駅出発

①伏木国分2丁目 天満社／半跏地藏

②伏木一宮1丁目 越中国分寺跡／四国霊場石仏、半跏地藏、弘法大師千回御忌報恩塔

③伏木一宮1丁目 路傍／中世石造物群(如来形座像など)

④伏木古府 曹洞宗正法寺／四国霊場石仏など

⑤伏木古府元町 曹洞宗長徳寺／青面金剛(庚申)、如来形座像

⑥伏木古府1丁目 曹洞宗梅林寺／准胝観音、双体地藏、半跏地藏

⑦伏木古府1丁目 路傍／聖徳太子二歳像

⑧伏木古府1丁目 法華宗柳重寺跡／不動明王

⑨伏木古府2丁目 路傍／不動明王、金剛界大日如来、地藏

⑩伏木古国府 路傍／馬頭観音

⑪伏木古府2丁目 八幡社／狛犬

⑫伏木東一宮 高野山真言宗光暁寺／「水天」、不動明王、弘法大師

⑬伏木東一宮 伏木神社／狛犬

⑭伏木東一宮 水神公園／「水神」、不動明王、准胝観音

⑮伏木東一宮 浄土宗念佛寺／如意輪観音、准胝観音

⑯伏木本町 浄土宗伏木教会／光導名号塔、地藏

○伏木駅到着解散

諸事情により見学先を変更する場合があります。ご了承ください。

令和3年度の会費を未納の方は、同封の振替用紙にて納めてください。年会費は3000円です。